

2024年 3月15日(金) - 6月9日(日) MARCH 15 - JUNE 9, 2024

第8回 横浜トリエンナーレ
8TH YOKOHAMA TRIENNALE
野草: いま、こゝで生きてる
WILD GRASS: OUR LIVES

横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路
Yokohama Museum of Art, Former Daiichi Bank Yokohama Branch, BankART KAIKO,
Queen's Square YOKOHAMA, Motomachi-Chūkagai Station Accessway

プレス資料

2024年1月17日

目次

第8回横浜トリエンナーレに向けて	
アートの手を少しだけ開けて　―第8回横浜トリエンナーレに向けて―	3
蔵屋美香　横浜トリエンナーレ組織委員会　総合ディレクター／横浜美術館　館長	
第8回横浜トリエンナーレの特徴	4-5
「野草: いま、ここで生きてる」	
アーティスト・ディレクター　　リウ・ディン（劉鼎）、キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）	6
第8回横浜トリエンナーレ　アーティスト・ディレクター	
コンセプト	7-8
企画の特徴	9-10
日々を生きるための手引き集 (Directory of Life)	10
展示について	11
主な参加アーティスト	12-14
参加アーティスト一覧	15-16
パブリックプログラム	17-19
スクールサポート	20
横浜トリエンナーレサポーター	20
アートもりもり！	
セット券で鑑賞できるプログラム	21
一緒に横浜で開催される主なアートプログラム	22
応援プログラム	23
会場	24
チケット情報	25-26
開催概要	27
連携拠点 / 支援 / 後援 / 助成 / 協賛 / 協力	28
開催実績	29

アートの扉を少しだけ開けて
―第8回横浜トリエンナーレに向けて―

横浜トリエンナーレは、3年に一度開催される現代アートの祭典です。2001年にスタートし、200を数える国内の芸術祭の中でも長い歴史を誇ります。国際的に活躍するアーティスト・ディレクター（以下AD）を毎回招き、世界のアーティストたちがいま何を考え、どんな作品をつくっているかを広くご紹介するのが特徴です。

このたび第8回展を迎えるにあたり、私たちは、強みであるこの「国際性」を大切にしながら、次の10年に横浜トリエンナーレがどうあるべきかを考えました。その結果、当初から掲げる「現代アートの良質の入門編になる」という目標に、いま一度ていねいに立ち返ることにしました。

第4回展（2011年）から第7回展（2020年）までの10年は、展示の大きな部分を横浜美術館の会場が担いました。これからの10年は、もっと街なかのさまざまな場所に展示を広げていきたいと思います。美術館に行こうと身構えず、多くの方がふとアートに出会うタッチポイントを増やすべきと考えるからです。

しかし同時に私たちは、改めて美術館会場のメリットにも目を向けます。3年の工事休館を経て今回リニューアルオープンを迎える美術館は、新しいエレベーターや多機能トイレ、授乳室を完備しています。また、あちこち移動しなくてもここだけでたくさんの作品を見ることができます。初めてで戸惑う方、小さなお子さんと一緒の方、体調が不安な方などのためにこそ、美術館会場は力を発揮します。

こうした検討を踏まえて、私たちは、今回の第8回展を主に次の二つの部分で構成することにしました（詳細につき、①はp.6から、②はp.21からを参照）。

- ①ADであるリウ・ディンとキャロル・インホワ・ルーが「野草: いま、ここで生きてる」をテーマに展開する展示（横浜美術館他、全5会場）
- ②「アートもりもり！」の名称のもと、市内の各拠点が統一テーマ「野草」を踏まえて展開する展示

気候変動や戦争、不寛容や経済格差。私たちの暮らしを支えていた価値が、いま大きく揺らいでいます。見る人それぞれの解釈を許す現代アートの作品は、見知らぬ誰かとその不安を分かち合い、共に明日への希望を見出すためのよき仲立ちとなります。すべてがわかったわけじゃないけれど、新しい扉を少しだけ開けた気がする。会場を訪れた方たちにそんな感覚を持ち返っていただきたくて、横浜トリエンナーレは次の10年への一歩を踏み出します。



横浜トリエンナーレ組織委員会　総合ディレクター
横浜美術館　館長
蔵屋美香

【第8回横浜トリエンナーレの特徴】

- ・北京を拠点として国際的に活躍するアーティストとキュレーターのチーム、リウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホワ・ルー（盧迎華）をアーティスティック・ディレクター（AD）に迎えます。
- ・全体テーマは「野草:いま、ここで生きてる」です。
- ・美術館から街へと大きく広がります。横浜駅から山手地区におよぶエリアを使って、ADが手がける国際展「野草:いま、ここで生きてる」(以下「野草」展、横浜美術館他全5会場)と、地域の文化・芸術活動拠点による展示やプログラム「アートもりもり!」を展開します。
- ・無料の展示をはじめ、どなたでもアートに親しむことができる多数のプログラムをご用意します。

ADによる国際展「野草:いま、ここで生きてる」とは？(6-11ページ) —この世界に生きる、わたしたちひとりひとりへのメッセージ

環境破壊や戦争、経済格差や不寛容——わたしたちの世界は今日多くの問題を抱えています。二人のADが企画する国際展「野草:いま、ここで生きてる」は、野の草のようにもろく無防備で、しかしこうした状況をたくましく生き抜こうとするひとりひとりの姿に目を向けます。「野草」というタイトルは、日本にゆかりの深い中国の小説家、魯迅(ろじん)の詩集『野草』(1927年刊行)に由来します。展覧会は、魯迅の時代を出発点に、東西冷戦の終結など、今日の息苦しさを生むもととなったこの100年のできごとをたどります。同時に、今この時代に対峙し、変化をもたらそうとするさまざまな作品をご紹介します。世界中から集まったアーティストたちの作品を通してわたしたちの生き方をふり返り、制度やシステムの限界を超えて未来を生きる希望をみなさんと共に見出したいと考えます。

世界の現代アートが横浜にやってくる(12-16ページ) —参加アーティスト67組、20組が新作を発表、日本初出展は30組

「野草」展には67組の多様な国／地域のアーティストが参加します(2024年1月17日現在)。このうち新作を発表するアーティストは20組、日本で初めて紹介されるアーティストは30組です。

北極圏の遊牧民、サーミ族の血をひき、人と自然の新たな共生のかたちを示すヨアル・ナンゴ(Joar NANGO)。トランスジェンダーとして既存概念にとらわれない多様性のあり方を社会に問うピッパ・ガーナー(Pippa GARNER)。南アフリカ社会に潜む家父長制や植民地主義と、そこから生まれる不平等をテーマに立体作品を制作するルンギスワ・グンタ(Lungiswa GQUNTA)。ウクライナのリヴィウで結成され、戦時下の市民生活をリアルに伝えるオープングループ(Open Group)。いずれも日本初出展の注目のアーティストたちです。

第8回横浜トリエンナーレの特徴

横浜駅から山手地区におよぶ広いエリアが舞台 —「野草」展+「アートもりもり!」が一带に多彩な展示やプロジェクトを展開

第8回横浜トリエンナーレは、横浜駅から山手地区におよぶ広いエリアで行われます。

「野草」展のメイン会場は、本展をもって3年ぶりにリニューアルオープンする「横浜美術館」と、港近くの「旧第一銀行横浜支店」および「BankART KAIKO」です。東西冷戦終結の1989年にオープンした横浜美術館と、魯迅の『野草』の時代に建てられた二つの歴史的建造物が、ADのコンセプトにふさわしい舞台を提供します。また、「クイーンズスクエア横浜」、「みなとみらい線元町・中華街駅連絡通路」の無料空間にも作品を展示します。

あわせて「アートもりもり!」の名称で、「野草」の統一テーマのもと、地域の文化・芸術拠点が多彩な展示やプログラムを展開します。(22-24ページ)。「BankART Life7」(BankART Station周辺、みなとみらい線新高島駅)、および「黄金町パズール2024」(京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオやその周辺スタジオほか)は、「野草」展とのセット券で楽しめます。

その他、写真家、石内部の「絹の夢—silk threaded memories」(みなとみらい線馬車道駅コンコース)など、無料で楽しめる展示も盛りだくさんです。

海と山、新しいまちと歴史あるまち。さまざまな横浜の素顔に触れながらアートと対話する——そんな横浜ならではの街歩きをお楽しみください。

いつでも、どなたでも「野草」体験(17-19ページ) —子どもやファミリー、アートビギナーも安心のプログラムを多数ご用意

「野草」展では、作品を鑑賞するだけでなく、つくったり、しゃべったり、考えたり、くつろいだりしながら子どもも大人も楽しめるプログラムを多数ご用意します。

横浜美術館内には、気軽に休憩したりワークショップに参加したりできる「こどものアートひろば『はらっぱ』」が初登場。横浜市役所アトリウムでは開幕時期にあわせ、ファミリーイベント「わくわくアートひろば」も開催します。

展示室内で気兼ねなくおしゃべりできる「おしゃべり鑑賞デー」や、短時間でわかりやすい「はじめての横浜トリエンナーレ『ちょこっとガイドツアー』」は、アートビギナーにぴったりのプログラム。

高校生および18歳以下は入場無料とし、ゲーム型イベントなどを実施してアートとの出会いをサポートします。

横浜美術館のリニューアルオープンを飾る展覧会 —どなたにとってもやさしい鑑賞環境を提供

「野草」展により、約3年にわたり休館していた横浜美術館はリニューアルオープンを迎えます。多機能トイレや授乳室を完備し、初めての現代アートで戸惑う方、小さいお子さん連れの方、体調に不安を抱える方などにやさしい鑑賞環境を提供します。横浜美術館のリニューアルオープンについては1月10日(水)発表の横浜美術館プレスリリース、および横浜美術館の公式WEBサイト(<https://yokohama.art.museum/>)をご参照ください。

第8回 横浜トリエンナーレ 六 野草: いま、ここで生きてる

【アーティスティック・ディレクター】

リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)



撮影: 大野隆介

【コンセプト】

第8回横浜トリエンナーレのテーマを「野草」にしようと考えたのは2021年の終わりでした。ちょうど世界が新型コロナウイルスのパンデミックから脱け出し、再び動き出し、つながり始めたこの時期に、第8回横浜トリエンナーレの準備は、数多ある国際展のなかで新機軸を打ち出すという志とともに始まりました。この野心的かつ勇気ある取り組みは、わたしたちにとって希望の光となりました。なぜなら、その光は、パンデミック、気候変動、ナショナリズムや権威主義への傾倒、ロシアによるウクライナ侵略、陰謀論の流布などがもたらした荒廃、絶望、そして、深い危機感を背景に放たれていたからです。そこで、わたしたちは個々人の人間性、それぞれの勇気、再生力、信念、そして連帯をあらわすテーマを考えるに至りました。

「野草: いま、ここで生きてる」というテーマは、中国の小説家である魯迅(1881~1936年)が中国史の激動期にあたる1924年から1926年にかけて執筆した詩集『野草』(1927年刊行)に由来します。この詩集には、彼が中国で直面した個人と社会の現実が描かれています。魯迅が当時直面していた窮状と敗北感は、1911年に起きた辛亥革命の経験にさかのぼります。辛亥革命により、古い秩序を象徴する清朝は倒れ、代わりに新しい秩序が生まれました。それにもかかわらず、中国社会が根本的に変わることはありませんでした。この経験から、彼は希望ではなく、絶望を自分の人生と仕事、そして思考の出発点とすることとし、希望も野心もない、ただの闇、闇のみの世界を完全に受け入れるようになったのです。同時に、この完全なる暗闇のなかから出口を見つけることにも専念するようになります。魯迅は、20世紀中国の状況に絶えず反発する、極めて孤獨な個人でしたが、世界の動きに目を配り、個人の運命と人間性について深く考える思想家でもありました。

「野草: いま、ここで生きてる」というテーマは、魯迅の世界観と人生に対する哲学に共感するものです。「野草」は荒野で目立たず、孤独で、頼るものが何もない、もろくて無防備な存在を思い起こさせるだけではありません。無秩序で抑えがたい、反抗的で自己中心的、いつでもひとりで闘う覚悟のある生命力をも象徴しています。さらにその命が最終的に到達する究極の状態はこの世に存在しません。あらゆる存在は、それ自体が別の存在をつなぐものであり、ある過程を示しているからです。したがって、勝利や失敗は関係なく、その存在は永遠に動き続ける状態に置かれています。どの存在も潜在的なメッセンジャーとして相互にはたらきかけ、仲介する関係にあります。ところで、この哲学的命題は抽象的な概念ではありません。むしろ、経験によって支えられた世界のなかに明らかに存在し、経験そのものを示しています。「野草」の人生哲学とは、個人の生命の抑えがたい力が、あらゆるシステム、規則、規制、支配や権力を超えて、尊厳ある存在へと高められます。それはまた、自由で主体的な意思をもった表現のモデルでもあるのです。

2019年に始まった新型コロナウイルスの急速な世界的広がりは、グローバル化がもたらした両立不能な矛盾を考えるきっかけとなりました。パンデミックは、公衆衛生だけでなく、ほかの危機の表面化を促し、加速化させ、新たなものまで誘発しました。パンデミックの状況下では、地政学的、経済的、社会的な難題がからみ合い、20世紀の政治や社会の構造や仕組みに根ざした、古い言語と新しい歴史的条件の間に矛盾があることを浮き彫りにしました。現代の世界秩序は、社会主義制度が衰退し、冷戦の終結を経て形成されたものです。今日、さまざまな政治体制が実際に直面している喫緊な課題は、それぞれの政治体制と社会形態との間に生じている断絶です。不公平な分配システムと寡頭制の経済的独占によって、社会の階級/階層の絶え間ない分裂と固定化が進み、もはや個人は政治的なレベルで自分たちをあらわす表現を見つけることはできなくなっています。わたしたちは、この苦境から抜け出したいと願いながらも、既存の社会の論理と抑圧に囚われたままになっているのです。これらの経験は、人間がもろい存在であることを明らかにしただけではありません。20世紀の政治や社会の制度設計に限界があることを露呈させたのです。

コンセプト

政治的覇権主義、イデオロギー競争の激化、文明の衝突が混在する現代の世界は、その健全性がむしろ、破壊されつつあります。また、個人の存在が尊重される空間は、大きく損なわれ、妥協を強いられています。ゆえに、平等と民主主義のための闘いは、未だに有効であり、むしろ、緊急性が高まっているともいえるでしょう。したがって、成功者や権力者の歴史ではなく、歴史の深みのなかで、あるいは、現代社会のなかで、個人の存在意義をいま一度肯定することが倫理の原則となるでしょう。ふつうの人々と彼らの生活について知ることは、絶えず変化し複雑化する課題に対して、盤石な対策の提示を可能にします。ここでいう「個人」は、社会的事件に直面したとき当然のように道徳的責任から免除されるような、抽象的な概念であってはなりません。わたしたちは、ささやかに想像してみるのです。わたしたち誰しものが、個人を苦しめるシステムを密やかに解体しうる、社会の裂け目に生きるアウトサイダーであったらと。

第8回横浜トリエンナーレでは、20世紀初頭にさかのぼり、いくつかの歴史的な瞬間、できごと、人物、思想の動向などに注目したいと考えています。たとえば、1930年代初頭に共鳴し合った日本と中国の木版画運動、戦後、東アジア地域が文化的な復興を遂げるなかで生まれた作家たちの想像力、1960年代後半に広がった政治運動とそれを経て行われた近代への省察、1980年代に本格化したポストモダニズムにあらわれる批評精神と自由を希求するエネルギーなど。そのうえで、歴史の終焉が提唱された後に生まれたアナーキズムの実践や思想を糧に、個人と既存のルールや制度との対話の可能性を探ります。

本トリエンナーレでは、アートとその知的な世界に目を向け、アートがいまのわたしたちに積極的にしかかわる方法を見出します。そして、アートの名のもとに、友情でつながる世界を想像します。そこでは、個人が国などの枠組みを越えてつながる行為(individual internationalism)と個人が生きるなかで発する弱い信号とが結びつくような、そんな未来が開かれると信じています。

2023年6月28日

【企画の特徴】

2019年の終わりから、わたしたちの生、精神、身体、そして暮らしはずっと困難と試練にさらされてきました。コロナ禍は終息しつつあるものの、われわれはみな、これまで以上にはっきりと窮地に追いやられています。こうした状況の中、創造的な実践者として、わたしたちは、今ここで経験していることを芸術的な手段で表現する必要性を感じています。

今回の横浜トリエンナーレでは、小説家、魯迅が著した詩集『野草』(1927年刊行)を今日的な形で取り上げたいと考え、アーティスト、思想家、研究者や社会活動家と一緒に展覧会の準備を進めることにしました。アーティストと仕事をするにあたっては、中国と日本の美術史に関する知識と、世界の現代美術に関する知見を共に駆使しました。こうして、それぞれの地域の現実と歴史に深く関わることで力強い表現を生み出すアーティストたちを選び出し、彼らとの協働作業を進めることになりました。既存の作品はもちろんのこと、何人かのアーティストに、わたしたちのテーマに共鳴しつつ独自の視点を取り入れた新作の制作を依頼しています。これらの作品が、今日の複雑な世界の現実を映し出す鏡となることを願っています。

第8回横浜トリエンナーレ「野草: いま、ここで生きてる」は、3つの主会場のほか、まちなかの会場でも展開します。主会場の一つである横浜美術館の展示は、キャンプ場を拡張したような景色が広がる「いま、ここで生きてる(Our Lives)」から始まります。この章では、普段は見えにくい、しかしわたしたちの暮らしに深くかかわる非日常――避難、亡命、放浪、抗議、戦争、そして災害の後やしあわせな再会など――を、視覚的な序章として示します。

ここに立ち現れるのは、世界の多くの人びとの実際の暮らしであり、すべてわたしたちの生活とパラレルに存在する社会的な光景です。これらの光景は、誰もがいつでもその状況に置かれる可能性があること、つまり、非常事態や不確かな生こそが常態であって、決して異例ではないことを、わたしたちに教えています。

これはある意味、哲学的な仮説を示すことなのかもしれません。しかし、これこそがわたしたちの生活に通底する現実にはかならないことを認識すべきでしょう。この章は展覧会全体の基調を定めています。ここでわたしたちは、危機に瀕した世界を直視し、絶望に向き合う個々人の回復力と主体性に目を留めることで、数々の課題と、無秩序に横溢する生命の力とが絡み合う光景を作り出すことになるでしょう。

またこの章では、横浜美術館の建物の中心を占める「グランドギャラリー」の真ん中に、『日々を生きるための手引集(Directory of Life)』を読むことのできるテーブルを設置します。わたしたちが編んだこの『手引集』には、2000年以降、アーティストや思想家、社会活動家たちがそれぞれの時代、歴史、生活について考えたテキストが収められています。ここで著者たちは、日常に潜む政治的、知的、文化的活力の存在を明らかにしています。紹介される実践やアイデアは、一定の歴史的条件下で生きるわたしたちにユートピアを想像する余地を与えてくれます。また、暮らしの中の些細なことから、今の状況全体を変えうる関係性や非関係性、またコミュニケーションの可能性や不可能性を見出す術を教えてください。わたしたちは、これらの言葉が来場者の心に行動を呼びかけ、希望の種を蒔くことを望んでいます。

こうして、わたしたちの暮らしの現状を描き出す「いま、ここで生きてる(Our Lives)」の章に始まる展示は、「わたしの解放(My Liberation)」と「すべての河(All the Rivers)」の章へと進みます。これらの章では、制約の多い制度の中で個人の領域を最大限に広げようとする主体的な想像力、働きかけ、行動に注目します。残る3つの章「流れと岩(Streams and Rocks)」、「鏡との対話(Dialogue with the Mirror)」、「密林の火(Fires in the Woods)」では、若さや自己の目覚め、生の亀裂などによって立ち現れる生命の力に注目し、引き続き個人の領域の拡張について考えます。最後となる「苦悶の象徴(Symbol of Depression)」の章は、「いま、ここで生きてる(Our Lives)」に呼応する形で、近代に対する深い批評をあらわします。

つづく→

企画の特徴

展覧会全体を通してわたしたちは、芸術と現実世界の関係や、アートの実践者が息長く、批判的に暮らしや社会に関わることの重要性について問い続けます。これは、資本と産業の論理が芸術の世界を覆い尽くし、その知的能力や批評的主体性を危機に陥れていることに対する、一種の批判的な応答なのです。

トリエンナーレをつくり上げるプロセスは、複数の視点を織り交ぜて進む交響曲の作曲に似ています。

わたしたちは一方で、東アジアの近代史において精神的に、また実践的に自己をつくりあげようとした人びとの事例を紹介します。これにより来場者に刺激を与え、現在の暮らしの中で自らも主体性を見出したいと感じるきっかけをつくります。

もう一方でわたしたちは、今の時代と対峙し、この世界に変化をもたらすためには個々人がその主体性を取り戻すことが急務である旨を明らかにします。このため、今日の文化的、政治的情勢について個人の視点から考察する数々の作品を紹介します。特に2010年以降、近代が陥った窮地から人びとを救う役割を果たした東アジアの活動家たちの理論や実践を取り上げます。

以上のさまざまな視点は、現在の暮らしの中で常に規制され、抑圧され、弱体化を余儀なくされる個々人の現状に目を向け、そこから自己を解放するために掲げられるものです。これらを通してわたしたちは、既存のシステムによって定められた生き方の先にある別の生き方を積極的に見つけ出そうと来場者に呼びかけます。すでにある境界線や制約、既定路線の外側にある世界を思考し、探求するよう、人びとを後押ししたいのです。

このように本トリエンナーレは、歴史的な事例と現代の実践の両方を紹介します。個人がどのように主体性と力を発揮し、イデオロギーの境界や国境を超えて友情を育んでいけるのか。また、今を生きる人びとの暮らしを中心に据えて世界を構築することはいかにして可能なのか。わたしたちはこのトリエンナーレを、こうした問いについて来場者と共に考える機会にしたいと思っています。

個人の主体性を重視することは、集団（コレクティヴ）の意義を否定することではありません。それは、能動的な個々の主体が一種の群衆（マルチチュード）のように集まって力を発揮することにつながっているのです。

2024年1月17日

【日々を生きるための手引集 (Directory of Life)】

本手引集は2000年以降、アーティストや思想家、社会活動家たちがそれぞれの時代、歴史、生活について考えたテキストが収められています。「連帯する思想家たち」(Fellow Thinkers)である10組の著者は、生きるヒントとなるテキスト (Sources) を提供します。

- 柄谷行人(著)『NAM—原理』(2000年)
- 汪暉(著)『世界史のなかの世界——文明の対話、政治の終焉、システムを越えた社会』(中国語初版2011年／日本語版2016年)
- デヴィッド・グレーバー(著)「ブルシット・ジョブ現象について」(英語初版2013年／日本語版2019年)
- ジュディス・バトラー(著)『アセンブリ: 行為遂行性・複数性・政治』(英語初版2015年／日本語版2018年)
- ビョーク&ティモシー・モートン(共著)「ビョークとティモシー・モートンの往復書簡」(英語初版2015年／日本語版2024年)
- 松本哉(著)『世界マヌケ反乱の手引書: ふざけた場所の作り方』(2016年)
- マッケンジー・ワーク(著)『資本は死んだ』(英語初版2019年／日本語版2023年)
- 斎藤幸平(著)『人新世の「資本論」』(2020年)
- 匿名(著)「寝そべり主義宣言」(中国語版2021年／日本語版2022年)
- インゴ・ニールマン&エリック・ニードリング(共著)「ヴァルダー・ダイエツト」(日英ともに2024年書き下ろし) ※初版年順

企画の特徴

【展示について】

アーティスト・ディレクター

リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)

章立て

「いま、ここで生きてる(Our Lives)」

「わたしの解放(My Liberation)」

「すべての河(All the Rivers)」

「流れと岩(Streams and Rocks)」

「鏡との対話(Dialogue with the Mirror)」

「密林の火(Fires in the Woods)」

「苦悶の象徴(Symbol of Depression)」

考える仲間たち(Thinking Partners)

いくつかのトピックについては、その分野を研究する専門家を仲間として迎えました。

江上賢一郎(東京藝術大学 特任助教)

萩原弘子(大阪府立大学 名誉教授)

町村悠香(町田市立国際版画美術館 学芸員)

王欽(東京大学大学院総合文化研究科 准教)

山本浩貴(文化研究者、金沢美術工芸大学 講師) ※姓のアルファベット順

空間設計

nmstudio 一級建築士事務所+HIGURE17-15cas

ビジュアル・デザイン

REFLECTA, Inc.(岡崎真理子+田岡美紗子+田中ヴェートリ美南海+邵琪)

【主な参加アーティスト】

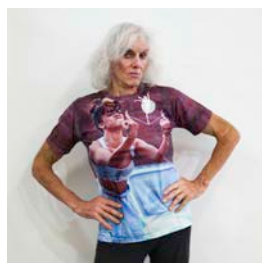


ヨアル・ナンゴ Joar NANGO

1979年、アルタ（ノルウェー）生まれ、ロムサ／トロムソを拠点に活動。北欧とロシア北部を移動するトナカイ遊牧民「サーミ族」の血筋をひく。地域内の資源循環に関心をもち、現地の素材をとり入れた仮設の構築物をつくる。それは資源不足や気候変動に直面する今の社会に対し、先住民の知恵にならった人と自然の共生のあり方を示す実践である。本展では横浜美術館のファサードに展示予定の「サーミ族」のこたばを用いた作品にも要注目。



《GIRJEGUMPI: The Sámi Architecture Library in Jokkmokk》2018
Photo: Astrid Fadnes



ピッパ・ガーナー Pippa GARNER

イリノイ州エヴァンストン（米国）生まれ、カリフォルニアを拠点に活動。ジェンダーを超えた作品で知られ、広告がつくり出す男女のイメージや消費社会に「生きづらさ」を感じてきた自らの経験をもとに作品を発表。1980年代にはアート・プロジェクトとして自ら異なる性に移行。性別、肌の色、年齢や既成概念にとらわれない多様性のあり方を社会に問う。



《Human Prototype》2020
Courtesy of the artist and STARS, Los Angeles, Photo: Rob Harris

※作品はいずれも参考画像です

主な参加アーティスト

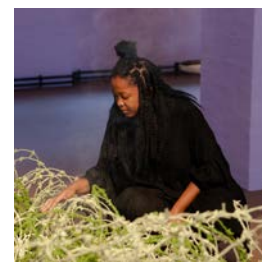
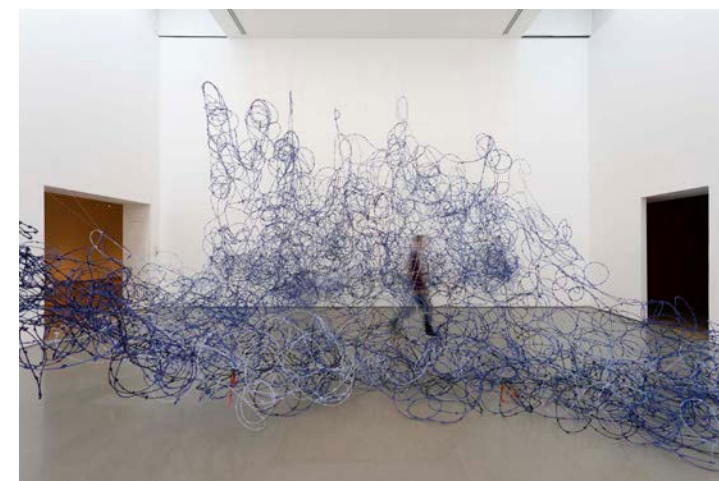


Photo : Min Young Lim

ルングイスワ・グンタ Lungiswa GQUNTA

1990年、ポートエリザベス（南アフリカ）生まれ、ケープタウンを拠点に活動。南アフリカにおける家父長制や植民地主義から生まれた不平等がひそむ「風景」を立ち上がらせる作品で知られる。有刺鉄線を編んだインスタレーションに布や身近な音などの柔らかい素材を組み合わせ、冷たさと暖かさの対比、異なる意味の重なりを生み出す。本展では横浜美術館内の無料エリアで有刺鉄線を使ったダイナミックな新作を展示予定。



《Ntabamanzi》2022
Courtesy of the artist and Henry Moore Foundation, Photo: Rob Harris



Photo: Marta Czyż

オープングループ Open Group (Yuriy BILEY, Pavlo KOVACH, Anton VARGA)

2012年、ウクライナのリヴィウで結成されたコレクティヴ。中心メンバーはユリー・ビーリー、パヴロ・コヴァチ、アントン・ヴァルガ。対話や討論、コミュニティへの参加や協働などの実践を通して作品を制作する。ロシアのウクライナ侵攻によってリヴィウの難民キャンプに逃れた市民を取材し、戦争や紛争の現状をリアルに伝える作品を日本で初公開する。



《Repeat After Me》2022 (video still)
Courtesy of the artists

※作品はいずれも参考画像です

主な参加アーティスト



Photo: Shin Hamada

SIDE CORE

2012年より活動を開始、東京都を拠点に活動。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。
個人がいかにか都市や公共空間のなかでメッセージを発するかという問いのもと、ストリートカルチャーの思想や歴史などを参照し制作する。ときに他ジャンルの表現者を交えたプロジェクトとして、都市の死角や隙間となる場所で多彩な作品を展開。本展では横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKOの3会場で新作を発表する。



SIDE CORE/EVERYDAY HOLIDAY SQUAD 《rode work ver. under city》2023
Courtesy of CCBT

※作品はいずれも参考画像です

〔参加アーティスト一覧〕

参加アーティスト 67組：うち日本初出展30組、新作出展20組（2024年1月17日現在）

	アーティスト名（日）	アーティスト名（英）	生没年 グループは結成年	出生国（地域）	日本初 出展	新作
1	セレン・オーゴード	Søren AAGAARD	1980	デンマーク	●	●
2	ディルク・ブレックマン	Dirk BRAECKMAN	1958	ベルギー		●
3	エリーズ・キャロン&ファニー・ドゥヴォー	Élise CARRON & Fanny DEVAUX	2021	フランス	●	
4	チュン・イン・レインボー・チャン／陳雋然	Chun Yin Rainbow CHAN	1990	中国（香港）		●
5	スーザン・チャンチオロ	Susan CIANCIOLO	1969	米国		●
6	ラリー・クラーク	Larry CLARK	1943	米国		
7	ノーム・クレイセン	Norm CLASEN	1939	米国	●	
8	クレモン・コジトール	Clément COGITORE	1983	フランス		
9	ラファエラ・クリスピーノ	Raffaella CRISPINO	1979	イタリア		
10	カルロマー・アークエンジェル・ダオアナ	Carlomar Arcangel DAOANA	1979	フィリピン	●	
11	ジェレミー・デラー	Jeremy DELLER	1966	英国		
12	ドバイ・ペーテル	DOBAI Péter	1944	ハンガリー		
13	土肥美穂	DOHI Miho	1974	日本		●
14	ピッパ・ガーナー	Pippa GARNER	-	米国	●	
15	ルンギスワ・グンタ	Lungiswa GQUNTA	1990	南アフリカ	●	●
16	マイルズ・グリーンバーグ	Miles GREENBERG	1997	カナダ		
17	アネタ・グシエコフスカ	Aneta GRZESZYKOWSKA	1974	ポーランド	●	
18	イェンス・ハーニング	Jens HAANING	1965	デンマーク		
19	アルタン・ハイルラウ	Artan HAJRULLAHU	1979	コソボ	●	
20	浜口タカシ	HAMAGUCHI Takashi	1931-2018	日本		
21	ルイス・ハモンド	Lewis HAMMOND	1987	英国	●	
22	マシュー・ハリス	Matthew HARRIS	1991	オーストラリア	●	
23	長谷川潔	HASEGAWA Kiyoshi	1891-1980	日本		
24	サウス・ホー／何兆南	South HO	1984	中国（香港）		
25	ジョナサン・ホロヴィッツ	Jonathan HOROWITZ	1966	米国	●	
26	ホアン・ボージィ／黄博志	HUANG Po-Chih	1980	台湾		
27	スターニャ・カーン	Stanya KAHN	1968	米国	●	
28	オズギュル・カー	Özgür KAR	1992	トルコ	●	
29	ダムラ・クルッチ克蘭	Damla KILICKIRAN	1991	スウェーデン	●	
30	北島敬三	KITAJIMA Keizo	1954	日本		●
31	ジョシュ・クライン	Josh KLINE	1979	米国	●	
32	ケーテ・コルヴィッツ	Käthe KOLLWITZ	1867-1945	ドイツ		
33	厨川白村	KURIYAGAWA Hakuson	1880-1923	日本		

参加アーティスト一覧

	アーティスト名 (日)	アーティスト名 (英)	生没年 グループは結成年	出生国 (地域)	日本初 出展	新作
34	クララ・リデン	Klara LIDEN	1979	スウェーデン		
35	魯迅	LU Xun	1881-1936	中国		
36	トレイボーラン・リンド・マウロン	Treiborlang LYGDOH MAWLONG	1987	インド	●	
37	ステファン・マンデルバウム	Stéphane MANDELBAUM	1961-1986	ベルギー	●	
38	森村泰昌	MORIMURA Yasumasa	1951	日本		●
39	サンドラ・ムジンガ	Sandra MUJINGA	1989	コンゴ民主共和国	●	●
40	ヨアル・ナンゴ	Joar NANGO	1979	ノルウェー	●	●
41	エリック・ニードリング	Erik NIEDLING	1973	ドイツ	●	●
42	インゴ・ニアマン	Ingo NIERMANN	-	ドイツ	●	●
43	丹羽良徳	NIWA Yoshinori	1982	日本		
44	小野忠重	ONO Tadashige	1909-1990	日本		
45	オープングループ (ユリー・ビーリー、パヴロ・コヴァチ、 アントン・ヴァルガ)	Open Group (Yuriy BILEY, Pavlo KOVACH, Anton VARGA)	2012	ウクライナ	●	
46	尾竹永子	OTAKE Eiko	1952	日本		
47	ポーブ・L	Pope.L	1955-2023	米国		
48	ブリックリー・ペーパー (チェン・イーフェイ&オウ・フェイホン) ／刺紙(陳逸飛&歐飛鴻)	Prickly Paper (CHEN Yifei & OU Feihong)	2019	中国		●
49	トマス・ラファ	Tomas RAFA	1979	スロバキア	●	
50	シビル・ルバート	Sibylle RUPPERT	1942-2011	ドイツ		
51	マーガレット・サーモン	Margaret SALMON	1975	米国	●	●
52	アラン・セクーラ	Allan SEKULA	1951-2013	米国		
53	志賀理江子	SHIGA Lieko	1980	日本		●
54	SIDE CORE	SIDE CORE	2012	日本		●
55	リタ・ジークフリート	Rita SIEGFRIED	1964	スイス	●	
56	フンクワン・タム／譚煥坤	Vunkwan TAM	1997	-		●
57	谷中安規	TANINAKA Yasunori	1897-1946	日本		
58	サローテ・タワレ	Salote TAWALE	1976	フィジー	●	●
59	勅使河原蒼風	TESHIGAHARA Sofu	1900-1979	日本		
60	富山妙子	TOMIYAMA Taeko	1921-2021	日本		
61	佃弘樹	TSUKUDA Hiroki	1978	日本		●
62	エマニュエル・ファン・デル・オウウェラ	Emmanuel VAN DER AUWERA	1982	ベルギー	●	
63	ミルテ・ファン・デル・マーク	Myrthe VAN DER MARK	1989	オランダ	●	
64	プック・フェルカーダ	Puck VERKADE	1987	オランダ	●	●
65	エクスパー・エクサー	Xper.Xr	-	中国 (香港)	●	
66	ジャオ・ウェンリアン／趙文量	ZHAO Wenliang	1937-2019	中国		
67	ジョン・イエファー／鄭野夫	ZHENG Yefu	1909-1973	中国		

(2024年1月17日現在)※姓のアルファベット順に記載

【パブリックプログラム】

展覧会で作品を鑑賞するだけではなく、つくったり、しゃべったり、考えたり、子どもから大人まで、お友だちやご家族と一緒に「野草」のテーマをいろいろなかたちで楽しめるプログラムです。

※事前申込が必要なプログラムなど詳細が決まり次第、順次発表します。

※主催者の記載がないものは横浜トリエンナーレ組織委員会が主催するプログラムです。

【どなたでも】

こどもものアートひろば「はらっぱ」[体験]

「つくる・あそぶ・くつろぐ」ために用意された美術館内のスペース「はらっぱ」。スタンプを使って創作したり、展覧会の感想を書いたり、休んだり、いろいろな過ごし方ができます。乳幼児を連れて休憩できるコーナーもあります。

日時：開場日10:00-16:00 会場：横浜美術館 会場構成・ワークショップ企画：横浜美術館教育普及グループ

はじめての横浜トリエンナーレ「ちょこっとガイドツアー」[参加]

横浜美術館のエデュケーターがガイド役となり、美術館内の無料観覧エリアの作品をご紹介します。

日時・申込方法：※後日発表 会場：横浜美術館 企画・運営：横浜美術館教育普及グループ

おしゃべり鑑賞デー[体験]

乳幼児も一緒に展示室で自由に鑑賞できる2日間です。子どもから大人まですべての人がおしゃべりしながら楽しく鑑賞できます。

日時：4/14(日)、5/5(日)10:00-18:00 会場：横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO

横浜トリエンナーレ ファミリーイベント@横浜市役所「わくわくアートひろば」[体験]

アートで遊べる「わくわくアートゾーン」や人工芝の上でゆっくり本が読める「ごろごろライブラリー」など、横浜市役所のアトリウムほかで開催する親子で楽しめる5日間限定のファミリーイベントです。参加者には素敵なノベルティのプレゼントもあります。

日時：3/16(土)-3/20(水・祝)11:00-15:00 会場：横浜市役所アトリウムほか(横浜市中区本町6-50-10)

主催：横浜トリエンナーレ組織委員会、横浜市

協力：急な坂スタジオ、横浜市資源循環局3R推進課、横浜市環境創造局みどりアップ推進課

環境演出：有限会社スタジオニプロール

びじゅチューン!×横浜トリエンナーレ トークショー[参加]

NHK Eテレ番組で放送中の『びじゅチューン!』の制作者と出演者が制作秘話や横浜トリエンナーレの魅力をご紹介します。3/15(金)-4/7(日)にはNHK横浜放送局1階で体験型展示を開催します。

日時：3/28(木) 1回目14:30-15:45(開場14:00)、2回目18:00-19:15(開場17:30)

出演：井上 涼(アーティスト)、倉森京子(NHKエデュケーショナル「びじゅチューン!」制作統括)

司会：NHK横浜放送局キャスター(予定) 会場：KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ(横浜市中区山下町281)

主催：NHK横浜放送局、横浜トリエンナーレ組織委員会

パブリックプログラム

OUR LIVES NOW, OUR LIVES TOMORROW

ー 今を切り取り、未来を描く子どもたちのアート作品展 [展示&体験]

横浜市内の学校8校で開催したワークショップで、子どもたちが発見し、学んだことや思いを形にした作品を展示します。4/20(土)、4/21(日)にはファミリー・ワークショップを開催します。(詳細は後日発表)

[展示] 会期: 4/16(火)~4/22(月) 時間: 10:00~18:00
会場: JR横浜タワー アトリウム3F イベントスペース(横浜市区西幸1-1-1)
主催: 特定非営利活動法人EduArt 共催: 横浜トリエンナーレ組織委員会 協力: JR東日本、YOKOHAMA Station City

アメリカ山公園ペーパーランプイベント「野草の灯」 [展示&体験]

ろうそくで火を灯した「ペーパーランプ」を並べて、アメリカ山公園の敷地いっばいに「野草」にちなんだ地上絵をアーティストが描きます。来場者もアーティストと一緒にろうそく設置や点灯に参加できます。

日時: 5/3(金・祝)、5/4(土) 各日16:00頃~ろうそく設置、17:30頃~点灯
主催: 特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、横浜トリエンナーレ組織委員会

演奏会「Earth ∞ Pieces -世界で最もSLOWなよろこびの歌-」 [体験|有料]

ベートーヴェンの「喜びの歌(第九)」の演奏会。蓮沼執太を音楽監督に迎えて、多様な背景のプレイヤーひとりひとりが地球のかけがえのない「Piece」(構成員)となり演奏します。

日時: 3/16(土) 19:00~20:30 会場: 象の鼻テラス(横浜市中区海岸通1丁目)
主催: 認定NPO法人スローレーベル 共催: 象の鼻テラス、横浜トリエンナーレ組織委員会
※プレイヤーは別途募集中です。詳細についてはこちらをご覧ください。 <https://www.slowlabel.info/news/7603/>

【未就学児／小学生】

ファミリープログラム「描こう、つくろう、野草になろう!」 [体験]

親子で絵具や紙をつかって描いたりつくったり、自由に創作できるプログラムです。

日時・申込方法: ※後日発表 会場: 横浜美術館 企画・運営: 横浜美術館教育普及グループ

【小学生以上】

ロボットと遊ぶ「野草」クイズ大会 [体験]

コミュニケーションロボットNAOが展覧会(作品)について出題するクイズ大会に参加できます。クイズは、「ロボットと遊ぶ『野草』鑑賞プログラム」に参加した児童・生徒が作成したものです。

日時: 4/14(日)、5/5(日) ※各日の開催時間は後日発表します。 会場: 横浜美術館
主催: 横浜市、横浜トリエンナーレ組織委員会、三菱総研DCS株式会社

パブリックプログラム

【10代】

ユースプログラム [参加&体験]

アーティストと対話する機会や作品を深く知る体験を通してアートへの理解を深める連続プログラムです。
日時・申込方法: ※後日発表 会場: 横浜美術館 企画・運営: 横浜美術館教育普及グループ

【高校生】

ワンダリングチャレンジ in 横浜トリエンナーレ [体験]

高校生が友人や仲間を誘って3人一組で参加する体験型ゲーム・イベント。横浜のまちやトリエンナーレ会場を舞台に、決められた期間に、ミッションに挑戦して成果を競い合います。

会期: [ミッション挑戦期間] 4/21(日)~5/5(日)、[クロージングイベント] 5/11(土)
主催: ワンダリングチャレンジ横浜トリエンナーレ大会実行委員会 共催: 横浜トリエンナーレ組織委員会

【進行中のプログラム】

横浜トリエンナーレ オリジナルグッズ 開発ワークショップ [体験]

展覧会に合わせてオリジナルグッズを企画し、試作品を制作します。審査で選ばれた優秀作品は4月以降に「未来のクリエイターグッズ」として、第8回横浜トリエンナーレのグッズ取扱いショップで販売予定です。

主催: 横浜トリエンナーレ組織委員会、NTT東日本、NTT ArtTechnology
※参加者募集は締め切りました。ワークショップの詳細についてはこちらをご覧ください。 <https://www.yokotori-ws.jp>

【特別な一日】

横浜トリエンナーレでは、国籍、年齢、性別、障がいの有無などに関係なく誰もが「野草」に触れられるようなプログラムや環境づくりに取り組みます。

ロボットと遊ぶ「野草」鑑賞プログラム

展覧会を鑑賞した後、コミュニケーションロボットNAOと一緒に感想を共有します。

対象: 特別支援学校、特別支援学級などに通学する小・中・高生 ※参加者募集については、後日発表します。
開催日: ワークショップ 3/20(水・祝)、3/30(土)、展覧会鑑賞 3/22(金)~29(金)の期間中に自由鑑賞
会場: 障害者スポーツ文化センター「横浜ラポール」 主催: 横浜市、横浜トリエンナーレ組織委員会、三菱総研DCS株式会社

若者支援プログラム

若者の自立就労支援団体と組み、アウトリーチと展覧会鑑賞を組み合わせたプログラムを行い、生きづらさを抱える若者に展覧会を届けます。

対象: K2 インターナショナル利用者 開催日: アウトリーチプログラム 2/28(水)、展覧会鑑賞プログラム 3/27(水)
企画・運営: 横浜美術館教育普及グループ 連携: 株式会社K2 インターナショナルジャパン

そのほか、アーティストを迎えて行うトークやワークショップ、視覚や聴覚に障がいのある方や外国語を母語とする方などを対象とするプログラムも準備中です。詳細は決まり次第、順次発表します。

【スクールサポート】

横浜市内の児童、生徒、教員を対象に次のプログラムに取り組みます。

横浜トリエンナーレガイド

横浜市内全ての小学校、中学校、高校を対象に、横浜トリエンナーレや現代アートを紹介するリーフレットを配布します。小学校低学年及び小学校高学年・中学生対象のものはゲーム感覚で楽しめるもの、高校生対象のものは「野草」への理解を深めるため、読み物として楽しめるジャーナル仕立てのものを準備しています。なお、ガイドのデータは、公式WEBサイトで一般に公開します。

対象：横浜市内全ての小学校、中学校、高校 企画・編集：横浜美術館教育普及グループ 発行：横浜トリエンナーレ組織委員会

教員のためのオンライン説明会

開幕に先駆け、横浜美術館エデュケーターが横浜トリエンナーレのみどころを紹介し、美術に限らない教科等横断的な学びにつなげる説明会を実施します。

対象：横浜市内小学校、中学校、高校、特別支援学校教員および管理職 開催日：1/30(火) 企画・運営：横浜美術館教育普及グループ

教員向け鑑賞会

図画工作や美術を専門とする教員を対象にした鑑賞会を行います。

対象および開催日：横浜国立大学図画工作科研究会 4/24(水)、横浜市中学校教育研究会 美術科部会 5/8(水)、神奈川県公立中学校教育研究会 美術科部会 5/31(金) 企画・運営：横浜美術館教育普及グループ

小学生のためのスクールプログラム

横浜市内の小学生を対象に横浜美術館のエデュケーターが横浜トリエンナーレと現代アートに出会う鑑賞プログラムを実施します。

対象：横浜市内小学校高学年 1学年単位(最大3クラス)(予定) 企画・運営：横浜美術館教育普及グループ

ロボットと遊ぶ「野草」鑑賞プログラム

展覧会を鑑賞した後、コミュニケーションロボットNAOと一緒に感想を共有します。

対象・会場：みなとみらい本町小学校放課後キッズクラブ 開催日：展覧会鑑賞 3/27(水)、ワークショップ 3/28(木)

主催：横浜市、横浜トリエンナーレ組織委員会、三菱総研DCS株式会社

【横浜トリエンナーレサポーター】

第8回展では、「おもてなしサポーター」「キッズプログラムサポーター」「作品制作サポーター(随時募集予定)」の3つの活動を実施します。1/17までに総勢146名(延べ159名)の登録があり、高校生、大学生や専門学校生から80歳代まで幅広い年齢層の方々が一緒に活動します。



サポーター研修風景

「横浜トリエンナーレサポーター」とは、横浜トリエンナーレと一緒に盛り上げるボランティアです。2001年の第1回開催以来、展覧会の運営やアーティストの作品制作などのサポートを中心に、アーティストック・ディレクターの要請や展覧会の内容に応じて多様な活動を行ってきました。サポーターには、アートに関する知識や美術館等でのボランティア経験を問わず、どなたでも登録することができます。アートが好き、横浜のまちづくりや観光に関心がある、新しい仲間に出会いたいなどさまざまな関心を持った方々が集まっています。

アートもりもり!

横浜駅から山手地区におよぶ広いエリアでは、「アートもりもり!」と称し、「野草」の統一テーマのもとで展開される文化・芸術活動拠点の展示やプログラムを楽しむことができます。

【セット券で鑑賞できるプログラム】

BankART Life7「UrbanNesting:再び都市に棲む」



「Rooftop Paradise」BankART LifeII(2008)



「都市への挿入」川俣 正 BankART LifeVI(2020)

2004年の活動開始から、これまでも都市の中を移動し続けてきたBankARTの7回目の「BankART Life」のテーマは「再び都市に棲む」。いま現れている都市の在り様を、異なる視点から切り取った地図(環世界)を同時に提示する様に、それらを自由に渡り歩き、新たな世界(都市)の姿を垣間見る旅へと誘います。

会 期：2024年3月15日(金)~6月9日(日)

開場時間：11:00~19:00

会 場：BankART Station 他周辺各所

料 金：セット券でパスポートと引換
(BankART Life7単体パスポートは1,000円、高校生以下無料)

主 催：BankART1929

お問い合わせ：TEL 045-663-2812

E-MAIL info@bankart1929.com

WEBサイト <https://bankart1929.com/>

黄金町バザール2024 —世界のすべてがアートでできているわけではない



Photo:Yasuyuki Kasagi

黄金町バザールはアートとコミュニティの関係、アジアとの交流をテーマに2008年より開催しているアートフェスティバルです。15回目を迎える本展では黄金町に関わりのあるアーティストをはじめ、アジアや横浜、他都市よりアーティストを招聘し、いくつかの章立てに分けて紹介します。また、黄金町のまちづくりの歴史を振り返り、その20年の軌跡を辿ります。

会 期：2024年3月15日(金)~6月9日(日)

※会期中に一部展示変更あり

開場時間：11:00~19:00

会 場：京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ/周辺のスタジオほか

料 金：セット券でパスポートと引換
(黄金町バザール2024単体パスポートは1,000円、高校生以下無料)

主 催：特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、
初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

お問い合わせ：TEL 045-261-5467

WEBサイト <https://www.koganecho.net/koganecho-bazaar-2024/>

「一緒に横浜で開催される主なアートプログラム」



©Ishiuchi Miyako「絹の夢」
Courtesy of The Third Gallery Aya

石内都「絹の夢—silk threaded memories—」

馬車道周辺はかつて横浜開港から近代の礎を築いた「生糸貿易」に携わる商館や検査所が置かれ、関東甲信越一円から集積された生糸が欧米へと輸出されました。この絹に縁ある地に石内都「絹の夢」から紡がれた空間を立ち現します。

会期：3/15(金)～6/9(日) 会場：みなとみらい線馬車道駅コンコース
主催：BankART1929、横浜トリエンナーレ組織委員会



Photo: Ryusuke Ohno
©Arts Commission Yokohama

ポート・ジャーニー・プロジェクト“SEVEN SEEDS”展

象の鼻テラスでは、創造的取り組みを行う世界の港町との文化交流事業「PORT JOURNEYS」のメンバーらと構想する、激動の世界を見つめ直し次の世代に伝えていく展示企画「SEVEN SEEDS」と、象の鼻パークに広がる屋外パブリックアートプロジェクトを展開します。

会期：5/10(金)～6/9(日) 主催・会場：象の鼻テラス



創造都市横浜20周年記念 横浜クリエイティブCOOP

20年前に始まった創造都市事業に端を発し横浜に集積したクリエイター達の「いま」を一挙紹介。横浜に縁あるアーティスト/クリエイターのグッズや小作品が購入できる期間限定ショップを開設、イベントも多数開催します。

会期：3/15(金)～6/9(日) 会場：BankART KAIKOショップエリア
主催：クリエイティブネットワーク(BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラス)、横浜トリエンナーレ組織委員会



NEWoMan ART Window「Hi and Bye」高橋銃

東京藝術大学院美術研究家彫刻専攻修士課程を2021年に修了し、近現代彫刻の保存修復に携わりながら、自身も立体作品をメインに作品制作を行う高橋銃の「紙飛行機」をモチーフとした作品を展開いたします。

会期：4/1(月)～5/31(金) 会場：ニューマン横浜 NEWoMan ART Window
主催：株式会社ルミネ ニューマン横浜



横浜マリンタワー 横浜トリエンナーレ特別プログラム

2階アートギャラリーでは、作家によるギャラリー展示を開催(無料)。展望フロア(有料)では、デジタルアートと横浜の夜景が融合する「メディアアートギャラリー」を展開します。横浜の街とアートが同時に楽しめるプログラムです。

会期：3/15(金)～6/9(日) 会場：横浜マリンタワー 2階アートギャラリー、展望フロア
主催：横浜マリンタワー

「応援プログラム」



アートワークショップ「鳴る色／Ringling Colors」アーティスト 曾谷朝絵
Photo 松下 佳

市民、NPO、企業、アーティストやクリエイターの方々が主催する多彩な文化・芸術分野のイベントが、会期中に「応援プログラム」として市内各所で開催されます。ジャンルは現代アートにとどまらず、美術、映像、写真、演劇、音楽、ダンスなど幅広く、発表形式も展示、ワークショップ、講演会など様々です。小さなお子様やご家族で楽しめるものから、本格的な演目を好む方に満足いただけるものまで、幅広く展開されますので、第8回横浜トリエンナーレと合わせて、ぜひお楽しみください。「応援プログラム」の登録イベントは、3月に発表します。

応援プログラムWEBサイト(イベント・コミュニティプラットフォーム「ピーティックス」内特設ページ)
<https://feature.peatix.com/yokohamatriennale>

会場



「野草：いま、ここで生きている」会場

横浜美術館（横浜市西区みなとみらい3-4-1）
旧第一銀行横浜支店（横浜市中区本町6-50-1）
BankART KAICO（横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F）
クイーンズスクエア横浜（横浜市西区みなとみらい2-3 クイーンズスクエア横浜2F クイーンモール）
元町・中華街駅連絡通路（みなとみらい線「元町・中華街駅」中華街・山下公園改札1番出口方面）

「アートもりもり！」プログラムと会場

セット券プログラム

- ・BankART Life7「UrbanNesting:再び都市に棲む」（会場）BankART Station 他周辺各所
- ・黄金町バザール2024—世界のすべてがアートでできているわけではない
（会場）京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ/周辺のスタジオほか

横浜で開催されるアート・プログラム

- ・石内都「絹の夢—silk threaded memories」（会場）みなとみらい線馬車道駅コンコース
- ・ポート・ジャーニー・プロジェクト “SEVEN SEEDS”展（会場）象の鼻テラス
- ・創造都市横浜20周年記念 横浜クリエイティブCOOP（会場）BankART KAICO ショップエリア
- ・NEWoMan ART Window「Hi and Bye」高橋銃（会場）ニューマン横浜 NEWoMan ART Window
- ・横浜マリントワー 横浜トリエンナーレ特別プログラム（会場）横浜マリントワー 2階アートギャラリー、展望フロア

チケット情報

【入場料】

18歳以下または高校生以下は、無料です

券種	対象	一般	横浜市民	学生 (19歳以上)
「野草：いま、ここで生きている」鑑賞券 横浜美術館／旧第一銀行横浜支店／ BankART KAICO の3会場に入場可能 (別日程も可)		2,300 円 (前売：2,200 円)	2,100 円 (前売：2,000 円)	1,200 円
セット券 鑑賞券と「BankART Life7」 「黄金町バザール2024」のパスポートが セットになったチケット		3,300 円 (前売：3,200 円)	3,100 円 (前売：3,000 円)	2,000 円
フリーパス すべての会場に何度でも入場できます (取扱場所は横浜美術館のみ)		5,300 円	5,100 円	3,000 円

- 横浜市にお住まいの方はお得な価格でチケットをご購入できます。チケット購入の際に居住を証明するものを確認させていただきます。
- 学生チケットをお持ちの方は、各会場で在学を証明する書類(学生証等)を提示してください。
- 鑑賞券、セット券を購入済の方でもフリーパスへのアップグレードが可能です。差額分を横浜美術館会場チケット窓口にてお支払いください。
(差額は【鑑賞券】一般：3,000円/学生：1,800円、【セット券】一般：2,000円/学生：1,000円です。)
- 障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。

【チケット購入方法】

前売【1/18(木)10時から】

横浜市民は、前売チケットがお得です(一般料金から300円引き)。前売は、オンラインからの購入が便利です。

オンライン 公式WEBサイトにアクセスしてください。 <https://www.yokohamatriennale.jp/>

会場窓口 セット券プログラム 会場
・BankART Station（みなとみらい線新高島駅B1F）
・黄金町バザールインフォメーション「高架下スタジオSite-Aギャラリー」(横浜市中区黄金町1-6先)

ご注意:

- ・横浜美術館で前売チケットは購入できません。
- ・フリーパスは、前売の取り扱いはありません。3/15(金)から横浜美術館にて販売します。
- ・日時指定(事前予約)ではありません。

会期中【3/15(金)～6/9(日)】

オンライン	公式WEBサイトにアクセスしてください。 https://www.yokohamatriennale.jp/
会場窓口	「野草:いま、ここで生きてる」会場 ・横浜美術館 セット券プログラム 会場 ・BankART Station（みなとみらい線新高島駅B1F） ・黄金町バザールインフォメーション「高架下スタジオSite-Aギャラリー」(横浜市中区黄金町1-6先)

ご注意:
・「野草:いま、ここで生きてる」会場の、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKOでは、チケットは購入できません。
・フリーパスは、「横浜美術館」会場のみで購入できます。オンラインの取り扱いはありません。

【チケットに関するお問い合わせ】

ハローダイヤル 050-5541-8600 (9:00-20:00)

開催概要

タイトル	第8回横浜トリエンナーレ「野草:いま、ここで生きてる」 8th Yokohama Triennale “Wild Grass: Our Lives”
アーティストック・ディレクター	リウ・ディン(劉鼎)、キャロル・インホワ・ルー(盧迎華)
会期	2024年3月15日(金)～6月9日(日) 開場日数:78日間 [休場日:毎週木曜日(4月4日、5月2日、6月6日を除く)]
開場時間	10:00-18:00 (入場は閉場の30分前まで) 6月6日(木)～9日(日)は20:00まで開場
会場	横浜美術館(横浜市区西区みなとみらい3-4-1) 旧第一銀行横浜支店(横浜市中区本町6-50-1) BankART KAIKO(横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F) クイーンズスクエア横浜(横浜市区西区みなとみらい2-3 クイーンズスクエア横浜2F クイーンモール) 元町・中華街駅連絡通路(みなとみらい線「元町・中華街駅」中華街・山下公園改札1番出口方面)
主催	横浜市、(公財)横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
お問い合わせ	ハローダイヤル 050-5541-8600 (9:00-20:00)
公式WEBサイト	https://www.yokohamatriennale.jp/

連携拠点 / 支援 / 後援 / 助成 / 協賛 / 協力

連携拠点 BankART1929 黄金町エリアマネジメントセンター 象の鼻テラス 急な坂スタジオ

支援  文化庁(国際的なイベントにおけるアートの国際発信事業)

後援 外務省 神奈川県 神奈川新聞社 tvk(テレビ神奈川)

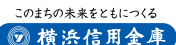
助成  Office for Contemporary Art Norway  BRITISH COUNCIL   GOETHE INSTITUT  AMBASSADE DE FRANCE AU JAPON  INSTITUT FRANÇAIS

協賛  NISSAN  野村総合研究所
Nomura Research Institute  NTT 東日本  三井不動産
MITSUI FUDOSAN

人を、想う力。街を、想う力。
三菱地所グループ

 JVCKENWOOD  スターツ  Takashimaya

  横浜銀行

 UYENO  川本工業  Kitamura  崎陽軒  Queen's Square  サカタのタネ  横浜信用金庫  NEWoMan

協力 京浜急行電鉄株式会社 住友不動産株式会社 相鉄グループ 株式会社大和地所
Peatix Japan 株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社 横浜アイランドタワー
横浜高速鉄道株式会社

開催実績

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
開催年	2001年	2005年	2008年	2011年	2014年	2017年	2020年
会期 (開場日数)	9月2日 - 11月11日 (67日)	9月28日 - 12月18日 (82日)	9月13日 - 11月30日 (79日)	8月6日 - 11月6日 (83日)	8月1日 - 11月3日 (89日)	8月4日 - 11月5日 (88日)	7月17日 - 10月11日 (78日)
主会場 (有料)	[2会場] ・パシフィコ横浜 展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫 1号館	[1会場] ・山下ふ頭3号・4号上屋	[4会場] ・新港ピア ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア	[3会場] ・横浜美術館 ・横浜赤レンガ倉庫 1号館 ・横浜市開港記念会館 地下	[2会場] ・横浜美術館 ・プロット48 [展示協力] ・日本郵船歴史博物館
テーマ	メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE ータイムクレヴァスー	OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることが できるか?ー	華氏451の芸術: 世界の中心には 忘却の海がある	島と星座とガラパゴス	AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる
ディレクター /キュレーター	アーティスティック・ ディレクター: 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	総合ディレクター: 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	総合ディレクター: 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オブリ スト ベアトリクス・ルフ	総合ディレクター: 逢坂恵理子 アーティスティック・ ディレクター: 三木あき子	アーティスティック・ ディレクター: 森村泰昌 [アソシエイト] 天野太郎 大館奈津子 柏木智雄 神谷幸江 林 寿美	コ・ディレクター: 逢坂恵理子 三木あき子 柏木智雄	アーティスティック・ ディレクター: ラクス・メディア・ コレクティヴ (ジューベシュ・バグチ、 モニカ・ナルラ、 シュッダブラタ・セーン グプタ)
作家数	109作家	86作家	70作家	77組 79作家 1コレクション	65組 79作家	38組 1プロジェクト	69組
作品数	113件	84件	66件	337件	444件	344件	269件 5プロジェクト
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円	約10億円
総来場者数	約35万人	約19万人	約55万人	約33万人	約21万人	約26万人	約15万人 *感染防止のため 入場制限を実施
外国人 来場者数	－	－	－	約3,000人	4,501人	7,059人	1,198人
中学生以下 来場者数	－	－	－	24,205人	26,381人	26,988人	8,619人
有料会場 来場者数	約35万人 ※ *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *未就学児無料	約16万人 *チケットは1日に限り有効 *フリーパスあり *中学生以下無料	約31万人 ※ *チケットは2日間有効 (連続しない日も可) *中学生以下無料	約30万人 ※ *チケットは1会場 1日有効 *中学生以下無料	約21万人 ※ *チケットは1会場 1日有効 *中学生以下無料	約25万人 ※ *チケットは1会場 1日有効 *中学生以下無料	約13万人 ※ *チケットは1日に限り有効 *中学生以下無料
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚	約10万枚	約6万枚 *感染防止のため 入場制限を実施
メディア 露出件数	237社以上 (うち海外36社以上) *掲載件数は記録なし	1,089件 (うち海外40件)	1,233件 (うち海外165件)	1,763件 (うち海外139件)	3,899件 (うち海外117件)	6,923件 (うち海外314件)	4,238件 (うち海外257件)
ボランティア 登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人	1,474人	1,671人

※ 第1回、第3回、第4回、第5回、第6回、第7回については、有料会場の延べ入場者数

【横浜トリエンナーレ組織委員会】

名誉会長 山中竹春 (横浜市長)【代表】
稲葉延雄 (NHK会長)
中村史郎 (朝日新聞社代表取締役社長)

事務局
事務局長 米澤陽子 (横浜市)

委員 近藤誠一 (〔公財〕横浜市芸術文化振興財団理事長)【委員長】
蔵屋美香 (横浜美術館館長) 【総合ディレクター】
足立哲郎 (横浜市にぎわいスポーツ文化局長)
逢坂恵理子 (国立新美術館長)
建畠哲 (埼玉県立近代美術館館長)
田中良憲 (NHK展開センター事業主幹)
日比野克彦 (東京藝術大学学長)
古屋昌人 (〔独法〕国際交流基金理事)
山内健 (朝日新聞社メディア事業本部文化事業専任本部長)

事務局次長 丸山晶子 (横浜市)
八巻直史 (朝日新聞社)
山田卓司 (NHK)

総合ディレクター
補佐 帆足亜紀 (〔公財〕横浜市芸術文化振興財団)

《プレスお問い合わせ》

第8回横浜トリエンナーレ広報事務局(株式会社プラップジャパン:本郷、藤井、畑野)

TEL:080-5887-1091(平日9:30-18:00)

E-MAIL:yokotoripr@prap.co.jp

《横浜トリエンナーレ組織委員会お問い合わせ》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

広報担当: 石川、里見、頼政

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL:045-663-7232(平日10:00-18:00)

E-MAIL:press@yokohamatriennale.jp

広報用画像貸出等プレス向けサイト:<https://www.yokohamatriennale.jp/press/>

第8回横浜トリエンナーレ
「野草：いま、ここで生きてる」

◎チケット情報 18歳以下または高校生以下無料！

券種	対象	一般	横浜市民	学生 (19歳以上)
「野草：いま、ここで生きてる」鑑賞券 横浜美術館／旧第一銀行横浜支店／BankART KAIKO の3会場に入場可能(別日程も可)		2,300円 (前売:2,200円)	2,100円 (前売:2,000円)	1,200円
セット券 鑑賞券とBankART Life7「黄金町パザール2024」のバスポートがセットになったチケット		3,300円 (前売:3,200円)	3,100円 (前売:3,000円)	2,000円
フリーパス すべての会場に何度でも入場できます (取扱場所は横浜美術館のみ)		5,300円	5,100円	3,000円

- 横浜市にお住まいの方はお得な価格でチケットをご購入できます。チケット購入の際に居住を証明するものを確認させていただきます。
- 学生チケットをお持ちの方は、各会場で在学を証明する書類(学生証等)を提示してください。
- 鑑賞券、セット券を購入済の方でもフリーパスへのアップグレードが可能です。差額分を横浜美術館会場チケット窓口にてお支払いください。
- 障がい者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料です。

◎チケット購入方法

オンラインチケット

→QRコードもしくは公式WEBサイトにアクセスしてください。

チケット取扱場所

→横浜美術館[3/15(金)から]、BankART Station、黄金町パザールインフォメーション ほか

- *ご注意:
- 前売期間[3/14(木)まで]：横浜美術館は3/14(木)まで休館のため、前売は取り扱っていません。
- 会期中[3/15(金)～6/9(日)]：「旧第一銀行横浜支店」「BankART KAIKO」会場ではチケットは購入できません。
- フリーパス：取扱場所は、横浜美術館のみです。前売、オンラインチケットはありません。

◎開催概要

会期:2024年3月15日(金)～6月9日(日)
開場日数:78日間
休場日:毎週木曜日(4月4日、5月2日、6月6日を除く)
開場時間:10:00～18:00 *6/6(木)～6/9(日)は20:00まで開場
*入場は開場の30分前まで

会場:

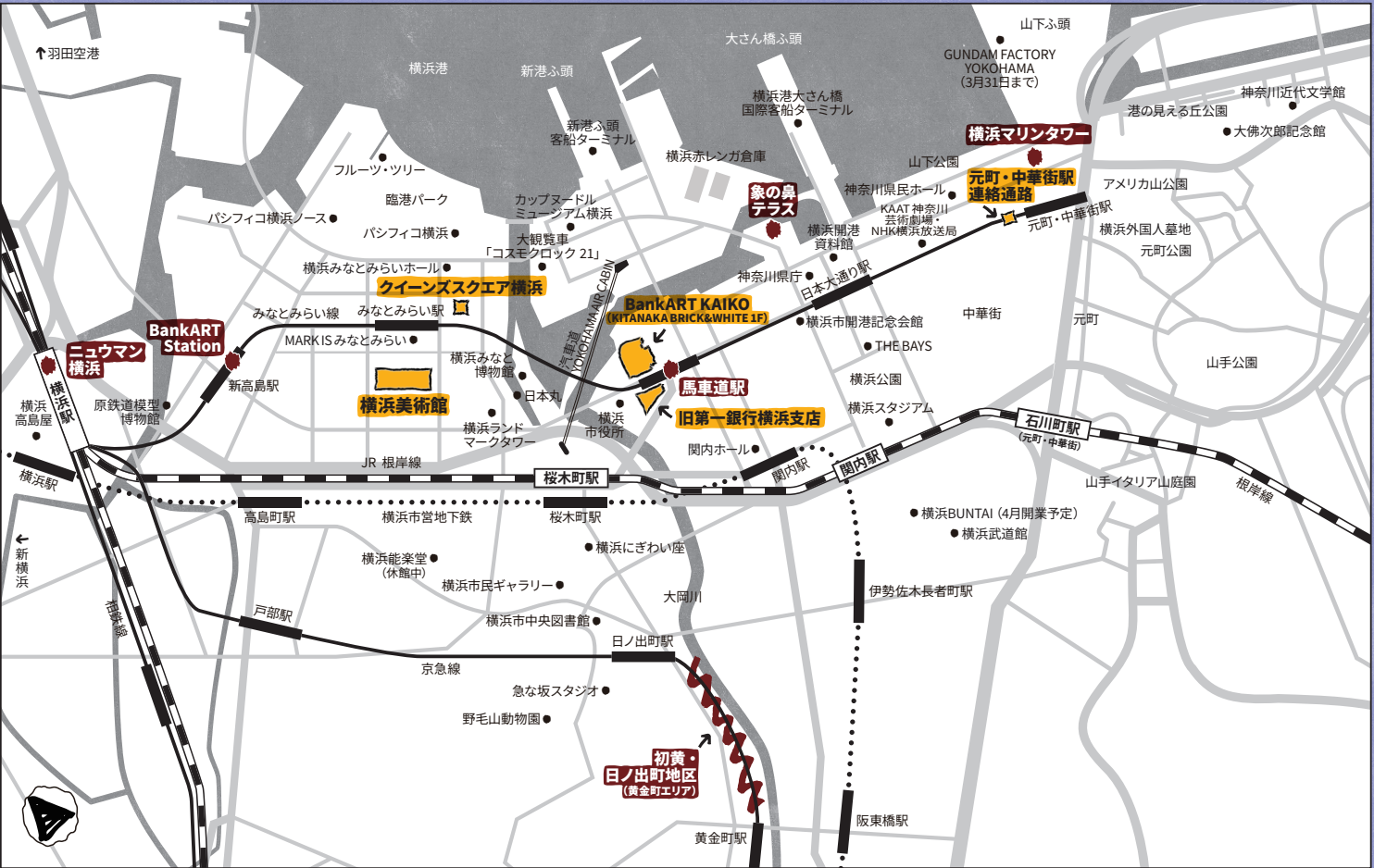
横浜美術館(横浜西区みなとみらい3-4-1)
旧第一銀行横浜支店(横浜市中区本町6-50-1)
BankART KAIKO(横浜市中区北仲通5-57-2 KITANAKA BRICK & WHITE 1F)
クイーンズスクエア横浜(横浜西区みなとみらい2-3 クイーンズスクエア横浜2Fクイーンモール)
元町・中華街駅連絡通路(「元町・中華街駅」中華街・山下公園改札1番出口方面)

主催:横浜市、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
連携拠点:BankART1929、黄金町エリアマネジメントセンター、象の鼻テラス、急な坂スタジオ
支援:文化庁(国際的なイベントにおけるアートの国際発信事業)
後援:外務省、神奈川県、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)
助成:オフィス・フォー・コンテンポラリー・アート・ノルウェー、ブリティッシュ・カウンシル、オランダ王国大使館、ゲーテ・インスティトゥート東京、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス
協賛:日産自動車株式会社、株式会社野村総合研究所、NTT東日本、三井不動産グループ、三菱地所グループ、株式会社JVCケンウッド、スターツグループ、株式会社高島屋 横浜店、びあ株式会社、株式会社横浜銀行、上野トランステック株式会社、川本工業株式会社、株式会社キタムラ、株式会社崎陽軒、クイーンズスクエア横浜、株式会社 サカタのタネ、横浜信用金庫、株式会社ルミネ ニュウマン横浜
協力:京浜急行電鉄株式会社、住友不動産株式会社、相鉄グループ、株式会社大和地所、Peatix Japan 株式会社、東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社、横浜アイランドタワー、横浜高速鉄道株式会社



各種交通機関の一日乗車券やマリンタワーセット券など市内で利用できる
お得なチケットもあります。詳しくは公式WEBサイトをご覧ください。

ハローダイヤル 050-5541-8600(9:00-20:00)
<https://www.yokohamatriennale.jp/>



2024年 3月15日(金) - 6月9日(日)
MARCH 15 - JUNE 9, 2024

第8回 横浜トリエンナーレ
8TH YOKOHAMA TRIENNALE
野草：いま、ここで生きてる
WILD GRASS: OUR LIVES

横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、
クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路
Yokohama Museum of Art, Former Daiichi Bank Yokohama Branch,
BankART KAIKO, Queen's Square YOKOHAMA,
Motomachi-Chūkagai Station Accessway

横浜美術館、旧第一銀行横浜支店、BankART KAIKO、クイーンズスクエア横浜、元町・中華街駅連絡通路

第8回 横浜トリエンナーレ

野草：いま、ここで生きてる

環境破壊や戦争、経済格差や不寛容——わたしたちの世界はこんなに多くの問題を抱えています。

第8回横浜トリエンナーレ「野草：いま、ここで生きてる」は、野の草のようにもろく無防備でありながら、しかしこうした状況をたくましく生き抜こうとするひとりひとりの姿に目を向けます。

アーティストック・ディレクターであるリウ・ディン（劉鼎）とキャロル・インホフ・ルー（盧迎華）が世界中から選んだ作品は、メイン会場となる横浜美術館の他、港近くの歴史的建造物や横浜中華街に展示されます。

横浜駅から山手地区におよぶ広いエリアでは、「アートもりもり!」と称し、「野草」の統一テーマのもと、文化・芸術活動拠点で多彩な展示やプログラムが展開されます。

海と山、新しいまちと歴史あるまち。さまざまな横浜の素顔に触れながら、アート作品と対話し、今の世界のその先にきっとあるはずの希望をともに見つける——そんな時間をゆっくりと過ごしていただきたいと願っています。



左頁上から時計回り：●ブリックリナー・ベネバー（チェン・イー・フー・フェイ・エイ・オウ・フエ・イ・ホン）／制紙（制紙派と紙派派）／制紙（制紙派と紙派派）／制紙（制紙派と紙派派）
●オプン・グレン・ルー（ユリ・ビ・エ・リ）／ハロー・コグナチ、アトランティック・ワル（Repeat After Me）2022（video still）, Courtesy of the artist ●ヨアル・ナゴ（GIRJEGUMPT: The Sami Architecture Library in Jokkmokk）2018, Photo: Astrid Fadnes ●サン・トラ・ムジカ（Ghosting）2019（installation view）, ©Sandra Mijnga, Croy Nielsen Vienna（Austria）, The Approach London（UK）and David Sjærnholm, Photo: David Sjærnholm ●ビッパ・ガナー（Human Prototype）2020, Courtesy of the artist and STARS, Los Angeles, Photo: Bennet Perez ●志賀直江子（あの夜のつなぐるところ）2023, ©Lieko Shiga, Courtesy of the artist, Photo: artist ●セレン・オーゴード（Prepper's Lab）2021（video still）, Photo: Ink Agop ●ジャコ・イェン・エー・ノ・超能年（野草）1978, Courtesy of Liu Ying

アート もりもり!

横浜トリエンナーレの開催期間中、
一緒に楽しめるアート・プログラム

BankART Life7と
黄金町バザール2024は
「セット券」がおすすめです。

BankART Life7
「UrbanNesting: 再び都市に棲む」
会場・BankART Station他周辺各所 主催・BankART1929



「Rooftop Paradise」BankART Life II (2008)

黄金町バザール2024
「世界のすべてがアートでできているわけではない」
会場・京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオ／周辺の
スタジオほか
主催・特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター、
初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会



Photo: Yasuyuki Kasagi

石内都
「絹の夢—silk threaded memories—」
会場・みなとみらい線馬車道駅コンコース
主催・BankART1929、横浜トリエンナーレ組織委員会



©Ishiuchi Miyako「絹の夢」
Courtesy of The Third Gallery Aya

ポート・ジャーニー・プロジェクト
“SEVEN SEEDS”展
主催・会場・象の鼻テラス



Photo: Ryusuke Ohno / ©Arts Commission Yokohama

創造都市横浜20周年記念
横浜クリエイティブC00P
会場・BankART KAIKOショップエリア
主催・クリエイティブネットワーク、横浜トリエンナーレ組織委員会

